



帯広西ロータリークラブ 第1966回例会 2012.9.27 会報



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

会長報告

先週のゲストのロータリー米山記念奨学会 事務局長の坂下様より「非常に西クラブの雰囲気がいい」と絶賛され「皆さんにくれぐれもよろしく」とのことでした。「青春を山に賭けて」という本にまつわる話をします。著者は植村直己です。私が人生の中で出会った中で最も印象深い人でした。27歳の時(33年前)に、青年会議所に入会し、雪まつりで大雪像作りをしていた時に植村直己さんが来ていて一緒に食事をする事となる。植村さんは周りにいろいろ悪口を言われたが、うなずきながらニコニコして焼肉を食べていた。そしてネパールの歌を歌って帰っていった。その後、「青春を山に賭けて」という本を読み、すごい人と感じた。1984年(28年前)にマッキンリーを登頂し、下山中に遭難した。もう一度会いたいと思う人物であった。

ゲスト紹介

北海道十勝総合振興局保健環境部児童相談室(北海道帯広児童相談所)

地域支援課相談支援係長 伊藤敏彦 様

会務報告

- ・帯広北RC 9月28日 移動例会
- ・帯広南RC 10月8日 休会
- ・RI第2500地区 地区大会開催の案内
北見にて10月5日より3日間

委員会報告

- ・米山記念奨学委員会
寄付総額の訂正および支援のお願い

ニコニコ献金

堂山啓太会員 今日、担当例会です。どうぞよろしく
お願いします。

田中耕吾会員 家庭集会、無事終了しました。忙しい
中ありがとうございました。

プログラム 新世代奉仕委員会担当 堂山啓太委員長 「帯広ロータアクトクラブの現状について」

18名でスタートし、現在20名で活動中。前回の例会は、「児童労働について」についての話題を論じた。

「児童相談室の概要・児童虐待について」 伊藤敏彦様

1. 児童相談所の業務について

18歳未満の児童の相談に応じている。養護相談・保健相談・障害相談・非行相談・健全育成相談に大別される。



2. 相談活動の状況

障害相談が一番多いが、養護相談が年々増えている。H23年で合計1654件あり。

3. 児童虐待の現状

児童虐待とは、親または親に代わる保護者等が、子供に次にあげる行為をすることをいいます。身体的虐待・性的虐待・ネグレクト(養育拒否・怠慢)・心理的虐待。

児童虐待相談数は、帯広でH23年で113件、全国でもH23年で59,862件あり、毎年増加している。その中で最近では心理的虐待が一番多い。

4. 虐待の通報

もしかしたら虐待ではないかもしれない?もしかしたら間違いかも?といった、虐待の疑いでも構いません。学校や保健所、医療機関等、個人ではなく機関自体にも通告義務が設けられました。また、守秘義務がある者が通告したとしても、罰せられることはありません。通告者が誰であるか公表されることはありません。匿名でも構いません。

2012年 9月 新世代のための月間

| | | |
|------------|-------|--------------------|
| ニコニコ 献金 | 9月27日 | 4,000円 |
| | 累計 | 230,000円 (9月27日現在) |



会長 川田 章博 副会長 岡田 武穂 会場監督理事 上垣香世子 発行：広報委員会
幹事 大友 広明 副会長 古田 敦則 プログラム委員会理事 河西 智子 委員長 鈴木 享 (副)本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

古田敦則会員の作品

「娘の涙」

今年娘が大学に進学し我が家は23年ぶりに夫婦水入らずになりました。よく「熟年離婚」などと言われ、子供が独立したり夫が退職したりするのを契機に、妻が夫に三下り半を下すことがあるそうで、少々不安に思っておりましたが、今のところは何とか無事のようなようです。

3人の子供達はそれぞれ男はサッカー、女はバスケットを高校まで続け、親も随分楽しませてくれました。その中で今でも忘れられない光景があります。

それは娘が小学校6年の最後の公式戦のことでした。当時娘がキャプテンを務めていたチームは最上級の6年生が娘一人しかおらず、とても弱いチームでした。

当然試合も連戦連敗で全く勝つことができず、娘も悔しい思いをしていたのですが、偶然実力伯仲のチームと1回戦で対戦することになり、初めて勝つチャンスが生まれました。

しかし、実際に試合が始まってみると、流れをつかむことができず、予想外の大差がついてしまいました。その試合の終盤、娘はポロポロと涙をこぼしながらボールを追いかけていました。この涙はキャプテンとしては失格の涙でした。本来、どんな状況になっても下級生を引っ張っていかなければならない立場のキャプテンが試合中に感情をあらわにしては試合にはなりません。

しかし、この試合に向けて一生懸命努力してきた娘を知る私たちは、その涙の理由がよく理解できました。勝った負けた以上に、スポーツを続けてきて、親も子もそこから学んだことの尊さを、その光景から今も思い起こしています。



広報委員会からのお願いです



広報委員会では、会員みなさんに「会報」への登場をいただくため、「原稿」をお願いしておりますが、現在、協力いただいた方が10名ほどの状況です。日々お忙しい中、恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、「友情をもって」原稿提出のご協力をいただきたくお願い致します。

原稿の内容はまったく自由です。ロータリーのことでも、趣味のことでも、日頃考えていることでも、何でも結構です。受付は随時、委員長鈴木、副委員長本田にご提出ください。